

日本作文の会編

# 日本の 子どももの詩

大阪



日本作文の会編

日本の  
子どもの詩

大阪

岩崎書店

日本作文の会

日本の子どもの詩 27

岩崎書店 昭59

110P 21cm

内容：27 大阪

〔分〕 911

日本の子どもの詩 27 大阪

一九八四年六月二五日

初版発行

編者 日本作文の会

発行者 大川松利

印刷所 株式会社 K・M・S

株式会社 金羊社

製本所 小高製本工業株式会社

発行所 岩崎書店

東京都文京区水道一―九―二  
電話(〇三)八二二―九一三―(代)

©1984 Nippon Sakubunno kai ISBN4 - 265 - 93827 - 2  
—Published by IWASAKI SHOTEN, Tokyo, Japan—

## はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもたちの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などもよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの「わらべうた」）としても、大きな意味があります。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「大阪編」であります。どうぞ、ひとつひとついいねいにお読みください。

もくじ



1918  
～  
1945

8

ほし  
はるがきた

とんぼ

思い出

9

あぜまめ  
彼岸の花

さびしい時

日まわり

10

光り  
わら切り

池の波

菜の芽

11

兄ちゃん  
新しい帳面

吹雪

おいもほり

月夜

12  
月夜のからすつき

13  
弟のちよきん箱

編物

月

14  
水の音

もみほし

燈火管制

15  
かえり道

おふろたき

16  
米洗い

開墾

おふろたき

17  
冬休み

春の雨

ほたると月

さぶいあさ

18  
道

すずめ

カンナの花

夏の日

19  
靴屋

なたね

夜

風呂の中

20  
あさがお

しゃせい

ひこうき

三日月

21 五月の建築

兄の出征

22 ああ、山本連合艦隊司令長官



1945  
~  
1959

24 おとうさん

でんでんむし

おしっこ

25 せんせい

きまっているのに

雲

26 雲

おとうちゃんはだれがすき？

27 母の道

先生

28 牛

二千年後

29 かえる

ひみつ

くつ

30 父

のら犬

31 とりをみた

おやつ

ぶらんこ

えんどうのつる

32 テープレコーダー

むぎかり

せんせい

33 米つき

かいすいよく

つばめ

しらすぎ

34 女の子

おとうちゃんの仕事

草かり

35 税務しょ

人工衛星

にきび

36 あめでがっこうへいけなかった

ぶどうとり

おつきよ

このきもち

おとうさん

お月さま

かえりみち

39 銀行

停電

40 秋  
台風

41 くつ音  
むしおくり  
父と母

42 風

お正月  
しもやけ

ふとん

うえ木

わたしのふく

パンパンむすめ

まんいん電車

お店

へそくり

45 お父ちゃんが就職したんや  
るすばん  
46 かんしゃく玉



1960  
～  
1969

48

うらしまたろう  
おたまじゃくし  
青い花

49 るすばん

ごめんなさいね

50 大仏さま

さざんか

51 月の世界

にわとりくん

52 北極星

古い友だち

53 雲の話

ざりがにの子

56 いのちというものは

学習さんかん

57 いもほり

びわ湖文化館

給食

58 母のえ顔

おかあさん

59 地球

大根

60 帰り道

かたとんとん

61 おとうちゃんのはたもち

七ほしてんとう虫の赤ちゃん

62 けんか

夜の国道

63 ふうりん

76	おかあさん	74	冬の海	73	青山先生	72	梅田の地下にて	71	ええかっこしい	70	にいちちゃん	69	色	68	もっと静かにしろ	67	戦争	66	かまきり	65	秋を見つけたよ	64	プラネタリウム	63	あだな	62	おつかい	61	母の趣味	60	あいつの涙	59	おぼん	58	つくえ	57	ゆかた
----	-------	----	-----	----	------	----	---------	----	---------	----	--------	----	---	----	----------	----	----	----	------	----	---------	----	---------	----	-----	----	------	----	------	----	-------	----	-----	----	-----	----	-----



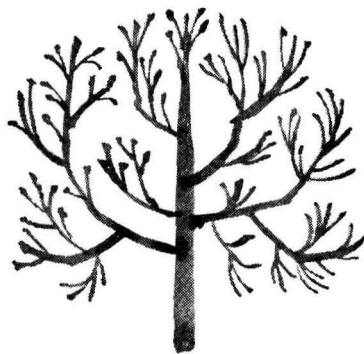
1970  
~

88	おかあさん	87	ひみつ	86	遊び	85	おかあさん	84	ベゴニアのはな	83	お金	82	さみしくなる夜	81	ふうせん	80	しごとをしているママ	79	おかあちゃん	78	あぶらなのたね	77	おかあさんの手	76	あぶり	75	かたつむり	74	しゅくだい	73	みちとちきゅう	72	あり	71	川	70	ゆめの国	69	山	68	かたつむり	67	山	66	山のむこうがわ
----	-------	----	-----	----	----	----	-------	----	---------	----	----	----	---------	----	------	----	------------	----	--------	----	---------	----	---------	----	-----	----	-------	----	-------	----	---------	----	----	----	---	----	------	----	---	----	-------	----	---	----	---------

- 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89
- 立ちしょんべん  
 おかあさんの手  
 焚き火  
 犬  
 たたされたこと  
 あべくんとあそびたいな  
 おかあさん  
 習字  
 砂と太陽  
 ぼくのひみつ  
 松本君  
 朝  
 ポプラ  
 ふじ山のねつ  
 水泳  
 一年生  
 あげはちよう  
 ひとりぼっち  
 弟  
 頭の毛  
 わたしのほった

- 110 107 106 105 104 103 102 101 100 99
- おなら  
 へび  
 ぼくのらんどせる  
 膠原病のおかあさん  
 こうつうじこ  
 のみの音  
 本  
 ねえちゃん  
 みかん  
 歯医者  
 十姉妹  
 雨の日  
 にわとりのたまご  
 マル  
 昔の本と顔  
 雨
- \*
- あとがき——大阪府の児童詩指導の歩み  
 この本の編集をした人たち





1918~1945  
(大正7年) (昭和20年)

ここには、  
子どもが詩を書きはじめてころから  
戦争が終わるまでの作品が、  
時代順にならんでいる。  
感覚をはたらかせた詩、  
生活を見つめて書いた詩、  
戦争について書かせられた詩、  
それらの一つ一つの詩に  
時代がとらえられる。

ほし

小林千賀子 小3

ピカピカひかるおほしさま、  
よるでてひかるおほしさま。  
小さい子どもは小さなひかり、  
大きい子どもは大きなひかり。

大阪市船場校

はるがきた

門田アイ子 小1

はるがきた  
はるがきた  
くさの上で  
ねていると  
ほちがあしを  
なめしてきた

北河内郡長尾校

8

とんぼ

虎田信雄 小3

とんぼが草にとまった、  
つかまえようとするとにげた。  
手をすっこめると、  
又同じ草にとまった。

堺市旅籠校

思い出

南茂子 小5

けんかをして  
帰る道、  
坂の上まで行つたとき  
ひよつと後を見たらば、  
その子もこちらを見ていた。

泉南郡近義北校

あぜまめ

西田よしゑ 小6

あぜ豆がゆれるよ。

涼しそうにゆれるよ。

秋風にゆれるよ。

向うから電車がくるよ。

泉南郡近義北校

彼岸の花

米田ちえ子 小6

ふみきりのはたに

光って赤い彼岸花、

風で散りそう。

しゃだん機が下りた。

泉南郡近義北校

さびしい時

村田りよ子 小6

誰もいない

さびしい時、

羽織はおりにふき出たわたを、

つまんでは

飛ばして見たよ。

泉南郡近義北校

日まわり

田中千晴 小4

にわとりが、

高くないた昼、

日まわりが

白いよ。

大阪市玉出第一校

光り

野川種雄 小4

しぐれの後、  
柿の木の、  
皮の光り、葉の光り、実の光り、  
じつと聞いてると、  
光から落ちるしずく、  
別々の音がするようだ。

大阪市天王寺第三校

わら切り

奥村健二郎 高1

わら切りしていると、  
道通る人が音きいて、  
よく切れそうやなと言いながら、  
通っていく。

泉北郡南松尾校

池の波

和田光子 小4

池の波  
針の様に光っている、  
貝の歩いたかた  
こうこ掘（深く）れている、  
白い小石  
白く光っている。

北河内郡招提校（指導）西川大治

菜なの芽

木村広雄 小4

石の間から  
菜の芽  
光っている、  
今池の向うで  
ひばりの声にする、  
あの声

お母さんの所まで  
ひびいているだろう、  
水が浅い、  
星のように流れている。

北河内郡招提校(指導)西川大治

### 兄ちゃん

兄ちゃんが肥<sup>こよ</sup>をやっている、  
白い粉が雪のようにちる、  
向うの山が  
ぼうっとして見えない、  
長ぐつにどろがついている、  
重そうに体をまげてる。

篠原秀文 小4

北河内郡招提校(指導)西川大治

### 新しい帳面

榎谷喜美子 小4

理科の時間

11

まっしろの帳面の上に  
手をそろっとおいて  
きれいな字かくねん  
といながらわらっていた  
えんぴつをちよんととがらして  
そつと手をおいて  
ゆっくりゆっくりかいた  
まっしろなかみ明るいな

豊能郡豊津校(指導)石橋俊雄

### 吹雪

前を見ようと思っても  
雪が顔にあたる。  
下向いて高亀さんと  
一しようけんめいに歩いた。  
風がきつい。  
後むくと風がおす。  
だんだん風がきつくなってくる。  
もう、たおれそうになる。

田中ヤス子 小4

みんなが、  
「えらい風や、こわくなるな。」  
と言い合う。

豊能郡豊津校(指導)石橋俊雄

### おもいほり

榎谷喜美子 小4

うしろの竹やぶが  
ごうごうなる  
にいさんと  
ぴかっとひかった土の中を  
こつこつとほっていた  
「寒いねきみちゃん  
ぼくら、つめたいわれ」  
といいながら手を  
はあつとふいていた  
(子いももぎとって)  
おもいもをわつては  
かごの中へ入れた  
こおった田んぼにもろが  
(もみ)  
くつついている

くろいくろい土を  
ぼたんぼたんおとした

豊能郡豊津校(指導)石橋俊雄

### 月夜

辻本薫 小3

月夜はひるのよう  
おかあさんもうれしいやろ  
工場からもどつてくるのに  
うれしいやろ。

泉北郡北松尾校(指導)小川隆太郎

### 月夜のからすつき

河西ユキ 小3

晩(からす)にからすをついた  
おかあさんが歌をうたった  
お月さんがまんまるこかった  
お月さんのそばで  
からすついた

泉北郡南松尾校(指導)小川隆太郎

弟のちよきん箱

荻田ミサ子 小3

弟の五銭たまったちよきん箱

出したり

入れたり

ならべたりしている

そして ひとりでわらっている

南河内郡大草校(指導)三戸正孝

編物

鈴木華子 小6

勉強してから母と向い合って、

十時頃まで編物だ。

母が

「これだけあんでくれたら

五十銭ほどもうかるがな」

と針はりをうごかしている。

日が青く家の中にさして、

ねむった弟と妹の顔が浮んでいる。

南河内郡富田林校(指導)松田龍二

月

鈴木華子 小6

いつも窓から見える月、

今夜はまんまるい。

「あこにお父さん住んだはるんやな。」

という弟。

母は

「あこにすんだはったらえんやけど」

ときみしく言う。

月はやっぱり

家の中を青くてらして、

母子四人のかげがうすい。

私は涙ぐんだ母を横目に見て、

毛糸の編物の針を運ぶ。

南河内郡富田林校(指導)松田龍二



## 水の音

広谷 修 小2

ぼくがいねをかっていると、

山のほうから

ごうごうきこえる、

ぼくがよくきくと、

山の方に川があるようだ。

お父さんにきくと、

石川の音だといった。

南河内郡富田林校(指導)松田龍二

## もみほし

北野美津子 小2

私はおおともへいった。

おおともほそ道とおった。

ここにも

あこにもきかいがなってる。

おおともの人ばかりだ。

14

知らん人ばかりだ。

もみをほしてあるにわで、

じつときかいのおときいた。

南河内郡富田林校(指導)松田龍二

## 燈火管制

日向一雄 小5

ごはんたべおわってから、

ねまの上で、戦艦高千穂たかちほをよんでいた。

今高千穂艦からひこうきが

A国へたたかいにいく所だ。

会社のきてき「ぶう」といつてなり出した。

又とまった。又なった。

お母さんでんきのすいっち切った。

字が見えなくなった。

お母さんかやの中へはいった。

「どん」というこうしゃほうの音

きこえてきた。

お父さん「一雄くらいな」

というこえきこえてきた。